

全 員 協 議 会 記 録

平 成 3 0 年 5 月 2 9 日

【開催日】 平成30年5月29日

【開催場所】 議場

【開会・散会時間】 午前11時～午前11時26分

【出席議員】

議長	小野 泰	副議長	矢田 松夫
議員	伊場 勇	議員	大井 淳一朗
議員	岡山 明	議員	奥 良秀
議員	河崎 平男	議員	河野 朋子
議員	笹木 慶之	議員	水津 治
議員	杉本 保喜	議員	高松 秀樹
議員	恒松 恵子	議員	中岡 英二
議員	中村 博行	議員	長谷川 知司
議員	藤岡 修美	議員	松尾 数則
議員	宮本 政志	議員	森山 喜久
議員	山田 伸幸	議員	吉永 美子

【執行部出席者】

副市長	古川 博三	地域振興部長	川地 諭
シティセールス課長	吉井 明生	シティセールス課課長補佐	大井 康司
シティセールス課主査	原田 貴順		

【事務局出席者】

事務局長	中村 聡	事務局次長	石田 隆
議事係書記	原川 寛子	庶務調査係書記	光永 直樹
庶務調査係書記	小松 美緒		

【付議事項】

- 1 山陽小野田市シティセールス推進指針について

午前11時 開会

小野泰議長 ただいまから全員協議会を開会します。本日の付議事項は山陽小野田市シティセールス推進指針についてであります。このシティセールスは第二次総合計画の重点プロジェクトに位置付けられ、また本市が始めて本格的に取り組む施策でありますので、全議員が共通認識を持つことが必要と考え、この推進指針について全員協議会で説明を求めることとしたところであります。それでは最初に執行部から推進指針についての御説明をお願いします。

川地地域振興部長 本日はお忙しい中、お時間を頂きましてありがとうございます。先ほど議長からも御説明がありましたとおり、第二次山陽小野田市総合計画に掲げております活力と笑顔あふれるまち、スマイルシティ山陽小野田の実現に向けまして、積極的なシティセールスの推進に当たりまして、基本的な方針となります推進指針をこのたび作成したところです。この推進指針は今後の本市のまちづくりの重要な指針となりますことから、議員の皆様方に御説明を申し上げる次第です。説明に当たりましてはシティセールス課長が行いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

吉井シティセールス課長 シティセールス課長の吉井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。それではお手元の山陽小野田市シティセールス推進指針の資料に基づきまして説明をさせていただきます。座って御説明をさせていただきます。

まず趣旨でございます。先ほど部長のほうからも申しましたけれども、この指針は第二次総合計画で策定しました本市の将来都市像とキャッチフレーズ「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」の実現に向けて、シティセールスを戦略的かつ効果的に推進するための指針というものです。

シティセールスの目的と効果ですが、シティセールスは本市が目指す都市の姿に共感をし、好きなまちをより良いまちにしようと、主体的に、かつ、相互に協力しながらまちづくりに参画する「本市のファン」を作ることとを目的としています。そして「誰もが主役のまちづくり」を推進する効果をもたらすものです。

本市が目指す都市の姿ですけれども、こちらは総合計画に掲げていますとおり、本市が目指す「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」ですけれども、こちらにも総合計画に掲げています五つの基本方針に示しておりますような「希望をもち健やかに暮らせるまち」等々、こういったまちでして、そうした人や社会、自然の活発な営みの中からポジティブな感情を湧き立たせてくれる都市というものです。

次にシティセールスの構成です。シティセールスは次の三つの柱で構成し、これらの好循環によりまちづくりの原動力となります「シビックプライド」、これは本市のファンが心の中に抱いているものですけれども、まちへの愛着や自負、帰属意識、主体性、こういったものです。シビックプライドの増幅を図ってまいります。1番目は本市に対する誇りや愛着の喚起・誘発、2番目は本市に対する共感の増幅・深化、3番目が本市の経営資源となりますヒト・モノ・カネ・情報・評判、こういったも

のを確保・獲得していく。そういう三つの柱から成り立っております。

ページをめくっていただきまして5番です。シティセールスの中心的な取組と書いております。どのようにして誇りや愛着、共感の種を作り、育てるか、ここが肝になってくるわけですが、歴史、産業、教育、文化、自然、スポーツ、サービス、これは私どもが提供する公共サービスも含まれますが、そういった地域資源につきまして更なる掘り起こしや磨き上げ、多角的な視点での再評価を行い、ポジティブな感情を湧き立たせてくれるような物語やデザインを新たに加えるなどの演出を行った上で、その魅力を発信します。単に情報の発信量を増やすというだけではなくて、より美しく、より格好良くというふうな形で魅力を発信していくということになってまいります。

6番のシティセールスの具体的な手法、優先的に取り組んでいく事柄と本市のファンの活躍していただく場面というものをそちらにお示しています。一つ目の本市に対する誇りや愛着の喚起・誘発としましては、具体的にはロゴマークやイメージカラー等の策定、ウェブサイト、映像、印刷物等による普及・啓発、ピンバッジやシャツなどのグッズ、名産品等の作成、こういったものが挙げられます。2番目の本市に対する共感の増幅・深化というものですが、広告やキャンペーンの展開、ワークショップ、市民との意見交換会等の開催、既にかなりのところで取組が進んでいると思えますけれども、環境美化などの運動、交流イベント、観光事業の実施、こういったものがあります。3番ですが、本市の経営資源の確保・獲得、これはU J I ターン等定住・移住策の実施、企業誘致、創業支援の実施、サポート寄附金制度の運用等、こういったものです。右側に図示していますとおり、それぞれの項目につきまして、市のほうから働き掛けていく場面が多いものと、本市のファンが活躍していただく場面が多いものといろいろありますけれども、こういった形でどの場面、どの項目にも本市のファンの方に活躍していただく場面はあるというものです。そしてまずシティセールスを所管しております地域振興部のほうで先導的な取組というものも行ってまいりたいと思えます。例えば観光事業ですと共に思い出を作れる機会に、レノファ山口との連携というものですと共に勝利を祝える機会に、こういった具合にあらゆる事業を使ってスマイルシティとしての印象づけ、共感を得るといものにしていきたいと考えています。

推進体制の整備です。まず庁内体制の整備としましては、市長をトップとするシティセールス推進本部を設置し、全庁的な推進体制を整備します。また事務局と各部局・各課における情報の共有を円滑にするために、双方向のコミュニケーションルートを常時開設するとともに、職員

向けの意識啓発を行ってまいります。2番目に本市のファンとの協働体制の整備ということです。本市のファンになって、それぞれ個別に活動していただくというだけではなくて、一緒になって取り組んでいただくという体制を整備することが必要かと思えます。シティセールス課におきまして本市のファンをスマイルプランナーという名称で登録しまして、市とスマイルプランナー、あるいはスマイルプランナー同士が相互に連携しながらシティセールスの取組を展開していくという体制を作り上げていきたいと考えています。スマイルプランナーとの協働によるシンボリックな事業も現在検討しています。例えばPR動画の作成や美化作戦があります。そして随時ミーティングやメール、SNS等によりまして情報共有を図り、各活動主体間の取組が相乗効果を発揮できるように努めてまいります。スマイルプランナーは個人であれ、団体であれ、法人であれ区別なく登録ができて、また居住地も問わないという形にしたいと考えています。市内外にお住まいの方、いずれでも登録できる形にしたいと考えています。また5番のところに御説明しましたように新たなデザイン、新たな物語を加えるという専門的な作業も入ってまいりますことから、シティセールス課では今後ロゴマークが選定されましたら、そのロゴマークをデザインしたデザイナーからも専門的なアドバイスを頂くということも考えていきたいと考えております。そしてスマイルプランナーを中心に将来的には任意団体であります「スマイルシティ・デザインセンター」、これは仮称ですが、こういった任意団体も立ち上げまして、より柔軟な活動が展開できるようにもしていきたいと考えています。

8番、取組の評価指標ですが、市の公式ホームページやSNSの閲覧数、スマイルプランナーの登録数を挙げております。3番目には「スマイルアップ・プログラム」と太字で書いておりますけれども、スマイルプランナーによります様々なまちづくりの取組の数、これも指標として掲げたいと思います。それから4番の「スマイルD I (Diffusion Index)」です。よく日銀の短観という形で景気動向指数で使われている言葉でございますけれども、景気が良くなったという回答、景気が悪くなったという回答、その比率の差引きで景気の先行きを判断するというものがありますが、そういった手法も導入しまして、スマイルプランナーの抱えている誇りや愛着、共感がどう増減したかという定性的なものも指標として掲げたいと考えています。そして5番目、経営資源の確保状況ということでU J I ターン者数、誘致・創業企業数、サポート寄附金等の額、こういったいわゆる施策の評価、成果につきましてもきちんと押さえていきたいと考えています。

スケジュールですけれども、当面、本年度のスケジュールを上半期、

下半期という形で分けて記載させていただいております。表側には三つの柱、それから体制整備というものを掲げておりますけれども、まず一番上の誇りや愛着の喚起・誘発という部分ではロゴマークやイメージカラーの策定、これ現在策定作業を進めておりますけれども、これをやってまいります。そしてウェブや印刷物等によります普及・啓発も随時行ってまいります。これもロゴマークやイメージカラー等が決まりましたら、更に取り組を加速していくということになっております。それ以降、公式グッズの作成、広告・キャンペーンの展開、こういったものにつきましても、これもロゴマークやイメージカラーが決まりましたら、大々的に展開していくということですが、これも現在企画を検討、調整中ということですので。意見交換会の開催も行ってまいります。できるものがありましたら、前倒してやっていくということも考えています。環境美化運動、交流イベント、観光事業の実施、こういったものもできるものから取り組んでいくというふうに考えています。経営資源の確保や獲得、これにつきましては既に以前から施策として取り組んでおるものですが、シティセールスを展開するという事に併せまして、こちらの取組も強化していきたいと考えています。体制整備のところにつきましては、今御報告差し上げております指針の策定、推進本部の立ち上げを行いまして、今後職員向けの意識啓発や各部事業への反映というものを行ってまいります。そして市民等の方々への働き掛けになりますスマイルプランナーの登録促進というものにつきましては、現在、制度の検討を行っているところでして、10月ぐらいをめどに登録希望者の募集を開始するという事を考えています。以上、私のほうから指針の説明を行いました。

小野泰議長　ただいま執行部から説明がなされましたが、何か御質問等ありましたら。

山田伸幸議員　これを全部今説明を頂いたんですが、全国でそのまちの魅力アップに大きく貢献するという事で、取り組まれているのが、映画ロケ地の誘致、いわゆるフィルムコミッション、山口県は非常に熱心に取り組んでいまして、県の無料の道路を使って、それを映画に載せるとかあるいはほかのまちでも様々な取組がされているんですが、本市では例えば焼野海岸をこちら側から全然アプローチしていなくてもブライダル業者が結婚式前の前撮りとしてあそこの夕日となぎさでこれから結婚を迎えるお二人がブライダル衣装に身を包んで、それをたくさんのスタッフが取り囲んで撮影をするという、あるいは本山海岸に以前東京の方をお

連れしたときに、このようなシチュエーションを是非何かそういう大画面で見れるようなそういったものに生かすことができないかというような御意見も頂きました。また映画とかテレビドラマですばらしい景観が映し出されると、聖地巡礼という形でたくさんの観光客が、特に最近取り上げられているのは、佐賀の稲荷神社、あそこがタイでしたか、テレビ番組に取り上げられて、たくさんのタイの方が訪れるということがあります。やはりそういった面で少なくないそういう魅力的な資源があるわけですから、そういったところをそういったプロデュースするところに売り込むとか、そういうことがこの中に全くなくて、積極的というふうには受け取れなかったんですが、そういう事業には取り組まれないんでしょうか。

川地地域振興部長 フィルムコミッションの件については、前々から議員からも御指摘を頂いています。私どもの今の考え方としては、フィルムコミッションについては、広域的な観点から近接市も積極的にやっておられますので、広域で取り組んではどうかという考えは持っています。今御指摘の焼野海岸の件ですけど、本年度、観光プロモーション調査事業ということで、既にプロポーザルを掛けていますけども、その辺の調査の内容を見ながら、今後具体的な内容について積極的に検討することとしています。

山田伸幸議員 フィルムコミッションについては市独自の取組はないということでもいいんですか。

川地地域振興部長 今回の段階では市独自でやるのか、広域でやるのかはまだ決めかねていまして、今後いろんな調査を見込む中で、検討していきたいと考えています。

杉本保喜議員 今回の推進指針を見ますと、今までやってきた、例えば観光アクションプランが30年度で終わるんですけど、これをどのように反省をして、そしてこれにつながったか全く見えないと私は思うんです。それからもう一つ疑問に思うのは、本市のファンというのがよその市町からでもいいですよと言っているんですけど、どのような形でファンを獲得していくのか、どのようなレベルの人がファンとして登録していいのかというところの一つの線を出しているのかどうかということなんです。私が一番疑問に思うのは、例えば私の経験から言えば、市のふるさとづくりとか語り部の会、郷土史研究会、そういうようなところが非常

に具体的に動いているわけなんですよね。そういう人たちに対して、また一番それに関わっている観光協会、そこをどのように活用していくのか、そういうところがこれには一切見えない、非常にすらっと押しなべていって、指針としては余りにも上っ面ばかり滑っていると感じられるんですけど、今までのそういう行政がいろんな形でアクションプランを決めたりとか、いろいろやってきている、そういうものに対してどのようにつながっていくかというところが必要だと思うんですけど、その辺りはいかがでしょうか。

川地地域振興部長 観光アクションプランの件ですけど、観光振興ビジョンはたしか平成26年度から32年度までの計画です。その中にアクションプランがありますけど、これについては今現在先ほど観光プロモーションの話をしましたけども、何点かの重点地域をいろいろ調査しながら今後の観光に役立てようと考えています。今回の推進指針については、あくまでも観光を含めての基本的な道筋を立てている次第ですので、具体的なことについては、いろんなアクションプランと連動をしながら、考えていこうと思っています。観光事業については3ページの共感の増幅・深化の中の観光事業の実施の中に取り込んでいると御理解いただければと考えています。

吉井シティセールス課長 先ほど本市のファンについてのお尋ねがありました。こちらについては、現在考えていますのは、お住まいはどちらでも構いませんよということ、これは本当に志の部分で考えています。本市出身で現在市外に出ている方とか、あるいはたまたま観光で来て、大変山陽小野田市を気に入ったという方々、こういった方々も「よし、次は山陽小野田のために何か一肌脱ごうか」と、あるいはふるさと納税で市に貢献しようかということを考えていただく方がたくさんいらっしゃると思います。そういった方々についても本市のファンという形で仲間にしてみんなでこのまちづくりを進めていこうという考え方です。現在でも既に積極的にまちづくりのために活躍している方々と、どのような形でコラボができるかと、あるいはそういった既に活動している方々の取組を邪魔しないというか、そういった方々が仕事がやりにくくなるみたいな形にはしないという仕組みも当然必要だとは思っていますけれども、今考えていますのは、基本的には幅広く、この市のために何か力になりたいという方々は広くすくっていく、登録していくという考え方に立っていますので、余り厳しい線引きは考えていません。

杉本保喜議員 妨げるというふうには思っていないです。逆に支援をしていた
だきたいという部分は多々あるんですね。先ほど言った本山岬にしても、
あそこは地元の人たちが非常に前向きに取り組んで、汗を流して、新た
なというよりは、隠れていた石段を発見してそこを整備したりと、いろ
いろなことをやっているわけです。そういう人たちをもっともっと活動
しやすい、仲間を得やすい、そういうようなところで行政が動いていた
だきたいという思いが非常に強くありますので、その辺りよろしくお願
いします。それからもう一つ、課長から意見交換会の開催を上半期に置
いていると、これを前倒しにしたいという話がありましたが、是非その
ようにしてください。やはり共に歩むということであれば、この意見交
換会というのは同じような時期から出発して、ディスカッションを積み
上げていくというのが、ずれがない、非常に実のあるところにつなが
っていくと思いますので、是非御検討をお願いします。

山田伸幸議員 幅広くというふうに捉えていると言われたんですが、実は今竜
王山に本当にこちら側が呼び掛けなくても、たくさんのカメラマンが来
られて、勝手に撮られている。それが資源として山陽小野田市に蓄積さ
れずに流出をしているだけなんですね。話を聞くと、遠いところでは岩
国市、下関市、長門市、山口市と、全県から来られているんですが、そ
ういった人たちを是非得られた情報を山陽小野田市の発展のために使わ
せていただくとか、そういった努力が必要であったと思うんですが、課
長は行かれたようなんですが、そういう人々がせっかく山陽小野田市の
魅力を発信してくれそうになっているときに市のほうは何もしていない、
無策ではないかなというふうに思っているんですが、そのほかにもいろ
んな花の海にしてもたくさんのカメラマンが訪れています。そういった
人々の資産を生かしていくという努力が私は必要ではないかなと思うん
ですが、いかがでしょうか。

古川副市長 今るる議員からいろいろ御指摘を頂きました。このシティセール
スの指針というのが、平成30年度の4月の機構改革の一番の要です。
先ほど部長も申しましたように総合計画を進める上での一番の推進力と
なります。そうした中で、ずっと以前から議会からもシティセールス課
はどういうものを取り組んでいくかという御指摘がありましたので、こ
のたびこのような形で推進指針という形でまとめさせていただきました。
この中にはシビックプライドということで、市民に誇りや愛着、共感
を持ってもらう、その中には今課長が申しましたように市を愛するファン

を作る、そのファンは市民だけではなくて、市外の人も、それが正に今山田議員が言われるようなホテルを撮りに来る方とか、いろいろいらっしゃると思います。そうした情報もまた頂きながらこれは基本的に指針ということで、こういう方向で進めていきたい、ですからいろいろ各論はまだまだ出てくると思いますので、議会のほうでもシティセールスの推進の議員連盟が立ち上がるやに聞いております。まだ私どももこの指針が完璧なものとは考えておりませんので、いろんな御指摘なり御意見を頂く中で、これを進めてまいりたいと思いますので、今後御意見、御指摘、情報を頂けたらと考えます。

小野泰議長 4月18日に仮称ではありますが、シティセールス議員クラブということで発足もしていますし、担当委員会としてもこれに取り組んでいただきたいですし、具体的な協議等をして進めていただければと思います。よろしいですか。全員協議会を終わります。お疲れ様でした。

午前11時26分 散会
